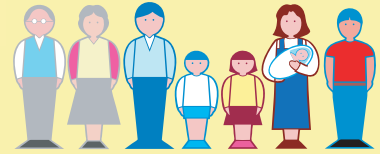


Duo



発行：美唄市男女共同参画推進協議会事務局（美唄市役所地域経営室内）

〒072-8660 美唄市西3条南1丁目1番1号 TEL 0126-62-3137

FAX 0126-62-1088 e-mail kikaku@city.bibai.lg.jp

*「デュオ」とは、イタリア語で「二重唱」、「二重奏」を意味する言葉です。 (会員募集中！(年会費1,000円))

男女共同参画社会づくり 教養講演会の報告

去る1月25日、美唄市総合福祉センターほづらにて「美唄市男女共同参画社会づくり教養講演会」が行われました。

本会と美唄市、財団法人北海道女性協会

との共催でした。講師には作家の森久美子さんをお迎えし、「食が育む心と体」というテーマでお話をいただきました。

森さんは、やさしくはっきりと「食」の意義を説きつつ、「食」を通して現代の私たちの生活を見つめなおすためのヒントをたくさん教示してくれました。「食べる」というのはとても人間らしいことであり、すべての人間の基本的な喜びであり欲求です。老若男女の別を問わず「食」に関係のない人はいないわけですが、私たちは日常の生活の中で「食」の意義を意識したことなどほとんどないのではないのでしょうか？



「食」に限りませんが、森さんの「当たり前」の事を伝えてこなかった責任がある！」との言葉を聞いて、つくづく納得。

地域で暮らして行くために必要なこと、家庭でのノウハウ、大切な習慣とその背景や意味……。

私たちはきちんと前の世代やまわりや地域から学びとり、それを次の世代へ伝えているのでしょうか？

森さんは「いただきます」という言葉はすばらしい言葉だと力をこめておっしゃっていました。森さんは自分が昔、行った先の農家で生きたにわとりをつぶしてその晩の料理としてご馳走になった時の気持ちを例にあげて、『結局私たちが食するもののほとんどは「生き物」です。その「命」をいただいて私たちは生きているわけです。だから「いただきます」ととなえるのです。』これには講演会参加者一同首をたてにふって納得しました。魚は頭がついたままのものを買って来て、子どもに見せて生きていたことを伝える……これも大事な「食育」。食卓を囲んで家族でコミュニケーションをとる……これも子どもの力を育む。 (次ページへ)

(前ページより)

最後に・・・「おふくろの味」があれば「おやじの味」があってもいい。食料を生産するのも、消費するのも、食卓を囲むのにも男女の別はない。すべての人に必要な

共通事項として「食」からいろいろなことを学び、それをみんなで意識づけをし、次の世代に伝えることを忘れてはならないでしょう。今回の講演でそれを学び、考えました。

(会員 高島 史図)

会員リレートーク

17

(会員 前川 和子)

今回この文章を書くにあたり、40年前を思い起こし最近の男女共同参画社会の姿と比べてみますと、行政における法制度の整備、取組をはじめ、企業、地域など、私たちの取り巻く環境、私たち一人ひとりの意識の中に着実に浸透してきているなど大変うれしく思っています。

私が嫁いだ当時、大半は大家族で男性優先、尊重の時代であり、特に農村社会においてはそのような因習や慣行が根強く、嫁の立場は、農作業の他に、育児、家事、介護、その他雑用・・・男女平等とはほど遠いものでした。そのような環境の中、少しずつですが社会の中で女性が活躍できるようになったのは、周りの男女平等への意識変化も少なからずありますが、何よりも自分自身の意識を変えてきたことだと思っています。自分の時間を持つくらしをしよう。現在、私は自分の立場、くらしに満足しています。



近年、学校の取組などにより若者への男女共同参画の理解は進んでいるように感じますが、私たちの世代ではそのような教育がなかったこと、また男は仕事、女は家庭というような固定的な役割分担の考え方が昔は当たり前だったこともあり、男女共同参画への理解はまだ充分でないように思います。このような世代へも男女平等の意識改革が進み性別、世代にかかわらず、一人ひとりが明るく楽しくくらすよう、微力ながらも男女共同参画を推進するメンバーとして力を尽くして行くつもりです。



身近な男女共同参画についての情報や「Duo」の感想などを事務局までお寄せください。お待ちしております。

*事務局:〒072-8660 美唄市西3条南1丁目1番1号 美唄市役所地域経営室内(担当:松田)
TEL 0126-62-3137 FAX 0126-62-1088 e-mail kikaku@city.bibai.lg.jp
*会報「Duo」は、美唄市の男女共同参画ホームページ(<http://www.city.bibai.hokkaido.jp/danjo/>)の中で「市民団体の取り組みの紹介」として掲載されています。

男女共同参画についてまちづくり出前講座でご説明します(申込先:美唄市役所地域経営室 TEL0126-62-3137)

*会場と時間を設定して頂ければ、市の担当職員が説明にうかがいます。

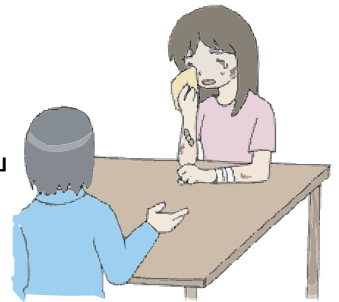
昨年11月に札幌市男女共同参画センター主催のシネマ&トーク「これはDVですか? 愛ですか」に参加させて頂いた。映画が始まる前に「もしこの映画を見ている内に気分が悪くなりましたらどうぞ自由に場を離れてもよい」と言われ、「なんで?」と思いました。今までDV(ドメスティック・バイオレンス)については聞いていましたが映画を見て本当にこんなひどいのかと目を伏せなくなる場面の連続でした。DVとは配偶者だけでなく恋人、婚約者、同棲相手、別居中の配偶者、元配偶者・婚約者など「親密な関係にあるパートナーからの暴力」のことです。

DVの実態ですが女性の3人に1人が何らかの被害をうけているとのこと。

DVのあらわれかたは、加害者である男性の学歴、職業、年齢、経済力などに関係なく起きており、加害者は誰にでも暴力をふるうのではなく、外ではいい人で通っていることも少なくないとのこと。また、いつも暴力をふるう一方で急に優しく振る舞うなど一定のサイクルにより行われることも多く女性に「今度こそ改めてくれるのでは。」と淡い期待を抱かせるケースもあるとのこと。



私は、映画を見て「なんで? あんな男から逃げればいいのに。」と思ったけど、別れないのですね。



暴力とは、精神的暴力、身体的暴力、経済的暴力、社会的暴力です。DVは人権侵害でどんな場合でも許されません。本当にそう思います。暴力は性別を問わず、許されるべきものではありませんが、特に女性に対する暴力は女性に恐怖と不安を与え女性の活動を束縛し、自信を失わせる。また、女性を男性に比べ従属的な状況に追い込む重大な社会的、構造的な問題であり男女共同参画社会の実現を阻害するものである。DVが少しでも減るように。最後に優しい我夫に感謝。

「デュオの会」屋外活動

「デュオの会」の存在と活動の理解を深めてもらうことを目的として、昨年8月4日の「美唄歌舞裸まつり」で会報を配布し、PR活動を行いました。

これからも「デュオの会」の活動について、もっと市民の皆さんに理解を深めてもらえるよう頑張っていきたいと思います。

配偶者暴力相談窓口について

配偶者からの暴力で困っている方などの相談を受ける窓口を設けています。このような方については「配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律」により、専門の相談や必要に応じて一時保護をする施設の入所、配偶者の接近禁止などの申し立て制度ができています。この法律についてのお問い合わせや相談がありましたら、市役所の女性相談窓口または女性相談援助センターまでお気軽にご連絡ください。

* 女性相談窓口 美唄市役所地域経営室 62-3137 (受付・・・月～金、8時45分～17時15分)

* 道立女性相談援助センター(札幌) 011-666-9955 (受付・・・月～金、9時～17時)

DV被害者・加害者のチェックリスト

配偶者暴力防止法が昨年改正され、本年1月1日に施行されました。

そこで、「ドメスティック・バイオレンス 愛が暴力に変わるとき」森田ゆり著（小学館）を参考引用し、DVのチェックリストを作成しました。該当する項目が6つ以上ある場合はDVの被害者・加害者である可能性が高いといえます。

被害者のチェックリスト

彼の機嫌を損ねては大変と思い、彼の要求を受け入れてしまう。

彼が怒りを爆発させて怒鳴ったり暴力を振るったりする行為に対して、彼に謝ったり、彼のために第三者に謝ったりする。

彼の態度に恐怖を感じることもある。

彼から頻繁に批判されたり、馬鹿にされたりする。

彼からのセックスを強要され、いやなのに応じている。

彼から殴られたり、蹴られたり、髪をひっぱられたり、突き飛ばされたり、タバコの火を押し付けられたり、刃物などで脅されたりしたことがある。

彼によって家族や友人に会ったり、電話で話すことをはばまれている。

貯金や給料へのアクセスを彼に占有されている。

話してもわかってもらえる人はいないと感じている。

根はいい人だから暴力さえふるわなければなんとかやっていけると思っている。



加害者のチェックリスト

この家の主人は自分なのだから、彼女は自分に従うべきだと考えている。

彼女がやるべきことをやらなかったり、生意気なことを言ったりしたときは、時には力を用いても厳しく対応しなければいけないと考えている。

自分が手をあげてしまうのは、彼女が怒りを誘発するからだと思っている。

つい抑えがきかなくなって手をあげてしまっても、そのあとすぐに誠実に謝り、彼女も許してくれているから、そんなにひどいことをしているわけではないと思っている。

彼女の交友関係が気になって仕方がない。電話に聞き耳をたてたり、手紙を開けて読んでしまうことがある。

家の中のことを実家や親戚や彼女の友人に知られたくないと思っている。

彼女を殴ったり、蹴ったり、殺すと脅したり、自殺すると脅したり、物を投げたり、突き飛ばしたりのいずれかを複数回したことがある。

彼女が自分の思い通りにならないと、激しい怒りを覚える。

自分がセックスを要求したら彼女が応じるのは当たり前だと思う。

自分は酒癖が悪くて酔うと殴ったりしてしまうので、酒の量を減らしたいと思っている。

二人の間で、DVを解決する事は非常に困難ですので、ひとりで悩まないで誰かに相談してください。

お問い合わせや相談がありましたら、市役所の女性相談窓口または女性相談援助センターまでお気軽にご連絡ください。



編集後記

『冬来たりなば春遠からじ』とは言っても北海道の春はまだまだ遠い。

辺り一面の銀世界は嫌いではないが、「ホームタンクに灯油満タンにする」と約50,000円！」と考えると暖かい地に行きた～い！！

(Y)

